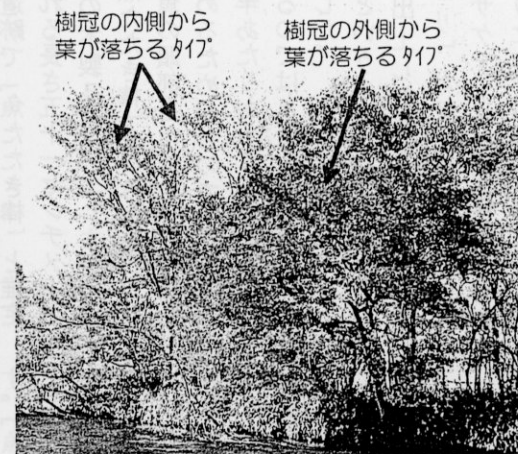




紅葉が美しい花川南防風林
(提供：阿部義孝氏)

野外で見る2タイプの落葉



木々の落葉をタイプ分け 木の育ち方が見えてくる

木々の葉が色付き、舞い落ちる季節になりました。紅葉は、木が冬を迎える準備をしている姿です。さまざまな木が育っている防風林をのぞいてみましょう。紅葉が早い種、遅い種、紅葉しない種などと、木によって紅葉の仕方が違うことがわかります。今回は、北国の落葉広葉樹林に見られる二つの紅葉(落葉)タイプを紹介します。

何種類かの木の樹冠(木の葉が茂っている部分)を注意深く観察していると、樹冠の内側(幹に近いほう)から葉を落としていくタイプと、樹冠の外側(枝先)から落としていくタイプとに大別されます(もちろん中間的なものもあります)。前者は、シラカバやヤナギの仲間。後者は、ミズナラやカエデ、サクラの仲間が相当します。

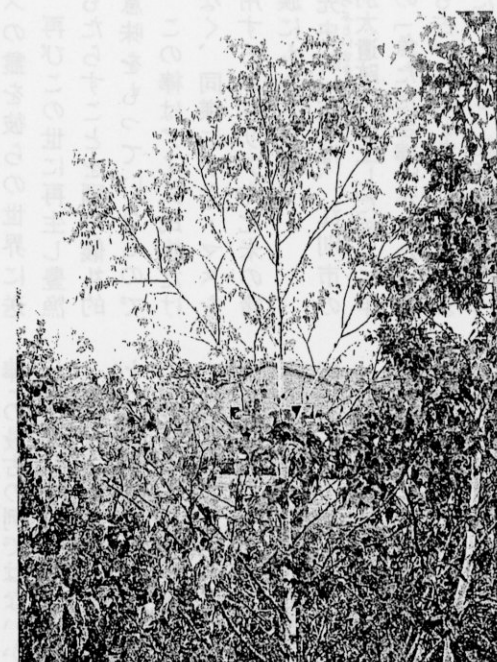
では、どうしてこのような違いが見られるのでしょうか。それは、春先の葉の開き方と大きく関係しています。樹冠の内側から落葉するタイプは、春から夏にかけて、新しい葉を順々に広げていったもの(順次開葉型)で、早い時期に開いた葉(すなわち古い葉)から順番に落としていくのです。一方、樹冠の外側から紅葉・落葉する樹種は、春に一斉に葉を広げ、それを秋までずっと長持ちさせていたタイプ(一斉開葉型)です。葉齢(葉の年齢)は同じでも、

日光がよく当り、光合成の盛んな外側の方が、葉の老化が早いのでしょう。

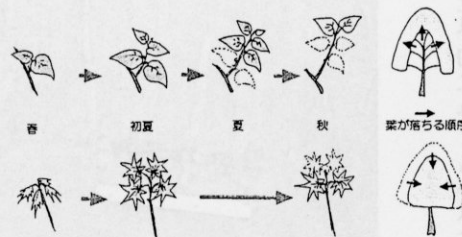
また、このような落葉の違いは、木の成長にも大きな影響を与えています。順次開葉型の木は、新しい葉を次々と開き、盛んに光合成を行い、明るい環境で早く成長するタイプです。川の氾濫した跡や火山跡地に新しい林を作り上げるので、パイオニアツリー(先駆樹種)と呼ばれています。一斉開葉型の木は、暗い環境でも地道に光合成を行い、林の中の上層木の下でゆっくりと育つタイプで、既に出て上がった林を維持していく役割を果たしています。

さて、皆さんの身のまわりの木は、枝先から葉が落ちますか？それとも幹側から？落葉の様子から、木の育ち方を想像してみたいはいかがでしょう。

(石狩浜海浜植物保護センター前野華子)



樹冠の内側から落葉していくシラカバ



絵で見る2タイプの落葉(上：樹冠の内側から落葉
下：樹冠の外側から落葉)

歴史のドアを開けよう
いしかり博物誌

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107
ihama@city.ishikari.hokkaido.jp
■文化財・博物館開設準備室 ☎72-6123
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp